

大原中学校だより
【大原中学校の教育目標】
「自ら考え、自ら判断し、自ら行動しようとする子どもの育成」

令和5年3月10日
第17号
校長 柴田美由紀



せいねん たましい
「青年の魂」を持って道を切り拓こう！

**卒業
おめでとう**



91名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、入学からのこの三年間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまに制限された環境にありながらも、それに打ち勝ち、数々の活動や行事を成功裏におさめ、立派に成長を遂げました。心から敬意を表します。また、どんな時でも、周りへの感謝や礼儀を忘れない皆さんを心から誇りに思いますし、愛おしく思います。そして、本日、九年間の義務教育の終了を迎えました。これから先は、義務ではありません。自分で選んだ道を、自分の責任で歩いていくこととなります。義務教育の終了とは、人生の新たな旅立ちでもあります。皆さんが今日こうして卒業の日を迎えられたのは、決して皆さん一人だけの力ではありません。天の恵み、国の恩、地の情け、人の慈しみ、なかでも、親・家族の慈愛への感謝を忘れてはなりません。皆さんをいつも大きな心で見守ってくださった地域の方々の存在も忘れてはなりません。そして、学級担任の先生をはじめ多くの先生方が皆さんの成長を信じて、時には厳しく、時には優しく指導してくれたこともしっかりと胸に刻むことが大切です。人は「ありがとう」の数だけ賢くなり、「ごめんなさい」の数だけ優しくなり、「さようなら」の数だけ“愛”を知るのです。

そのような皆さんの晴れの門出に当たり、思い出とお願いの言葉を述べたいと思います。生徒会スローガン「信頼」のもと、皆さんは数々の足跡を残してくれました。

「信頼～みんなで築く絆 あふれる笑顔～」を合言葉に、団結と連帯を競い合った体育大会。真夏を思わせる、焼けるように暑い日差しの中、全校生徒が一丸となって、渾身の演技を披露する姿は青春そのものであり、惜しみなない拍手と歓声が渦巻きました。体育大会を通じて流した汗と涙は皆の財産となり、仲間とのきらめく感動を共有した瞬間でした。

「信頼～みんなで創り上げる音楽、輝く個性、感じよう大原文化～」のもと、来る日も来る日も練習を重ねて臨んだ合唱コンクール。どの学級もさすが三年生と、それぞれの音色が織りなす響きは聴く者の心を存分にうならせました。まさに、溢れる想いが一つになり、心一つにして歌うところに、友達との絆の深まり、学級のまとまりが生まれることを実感できた文化発表会でした。

これらの一つ一つに十分な生命の燃焼がありました。すべては、卒業生の皆さんのリーダーシップなくしては得られない成果であり、必ずやこれらの姿は下級生への無言の教訓となり、しっかりと受け継がれるものと確信します。

そのような皆さんに、今、まさに新しい世界へと船出する皆さんに、かつて私が魂を揺

さぶられたサミュエル・ウルマンの『青年賦』という詩を贈ります。

『青年賦』

「青年とは齡の若さを指すのではない。
精神の滲刺さをいうのである。
青年とは豊かな頬、赤い唇、柔らかい肢体をいうのではなく、
意志の力、創造力、感激性を指すのである。
齡を重ねるだけで誰もが老いてゆくのでは無い。
理想を失い自信をなくした時にのみ人は老いる。
年齢は皮膚に皺をよせるが、情熱を失うとその人の魂に皺がよる。
常に明るい希望を持ち、勇氣凜凜（りんりん）、未来の夢に挑戦する人、
生命の歡喜を神に感謝する人であれば、
五十歳であろうと七十歳であろうと
その人は青年である。
春たけなわの新鮮さこそ、青年の魂の本当の姿である。」

私たち人間には、個々の夢、可能性、使命、人生があります。八十億の人がいれば、八十億通りの人生があるのです。同じ人生は決してありません。誰かと違ふとか、みんなと同じでなければ…などと思う必要はありません。まさに、「みんな違って、みんないい。」豊かな心で構えていければいいのです。「明珠在掌（めいしゅざいしょう）」人はみな、その手のひらに、キラキラと輝く珠玉を持っているのです。ただ、それがまだ何なのかわからずにいるのかも知れません。また、たとえ気づいていても、自分で磨き続けなければ光「輝く」珠玉にはなり得ません。誰彼と比べることなく、あなたはあなたらしく、「情熱を持って自分の理想を追い求め、自分に隠されている光り輝く珠玉を見いだせるように」力強く歩み続けていきましょう。これからの不透明で、予測困難といわれる時代を、皆さんが真に生涯を賭けるに足ると信ずる夢と出会い、将来の進路をこの「青年賦」を持ってたくましく切り拓いて行かれることを祈ります。

卒業生の皆さん、今日の門出は、まさにその第一歩であります。

それでは卒業生の皆さん、この学び舎を巣立ちゆく皆さんの洋々たる前途が、健やかで幸多からんことを心から祈ります。卒業おめでとう！

『訣別』
すべては訣別の詩だ
人はさよならと言うとき
一番美しい姿になる
目に光が生まれ
胸に愛が溢れてくる
ああ訣別を持つがゆえに
人生は美しい
坂村貞氏

